

【重点目標1】 学習指導：創造的思考力を育むとともに、データやデジタル技術を活用して、グローバル社会で求められる資質・能力を育成する。

具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果(カッコ内昨年同時期結果)	分析(成果と課題)及び次年度の扱い(改善策等)
① データを活用することで、生徒の論理的な思考力や批判的な思考力を育成する。そのための授業の工夫を促し、研究授業等の機会を設けることで、工夫について教員間で共有する。	「論理的に考えたり主張するためにデータを活用したりすることができる」の問いに対して「よくあてはまる」または「おおむねあてはまる」と答える生徒が A：90%以上 B：85%以上 C：75%以上 D：75%未満 昨年度75.8%（11月）	12月 生徒アンケート結果 「よくあてはまる」：29.7% 「おおむねあてはまる」：54.3% 合計： 84.0% 【達成度C】 (7月：79.9%)	・昨年同期より「よくあてはまる」と答えた生徒が7.3%上昇した。より意識の高い生徒が増えている兆候だと思われる。 ・引き続き、授業や探究活動の中でデータを活用し論理的に考えたり、主張したりする場面を増やす工夫をしていく。
② 学習や部活動・学校行事などの機会を活用して、「振り返り」を導入することによって、生徒一人ひとりが自らの課題を設定し、克服しようとする力を育む。	「学校生活において、何をすべきかを自分で考えて主体的に行動している」の問いに対して「よくあてはまる」あるいは「おおむねあてはまる」と答える生徒が A：90%以上 B：85%以上 C：75%以上 D：75%未満 昨年度89.2%（11月）	12月 生徒アンケート結果 「よくあてはまる」：37.6% 「おおむねあてはまる」：53.4% 合計： 91.0% 【達成度A】 (7月：87.9%)	・昨年同期より「よくあてはまる」「おおむねあてはまる」と答えた生徒が約2%増加した。 ・数値は年々上昇しているが、更なる向上のため「失敗してもいいから、とにかくやってみる」ということを授業、部活動、学校行事といったあらゆる場面で伝えていく。
③ 適切な発表技術等を生徒に教えるとともに、自分の意見や調べたことを発言・発表できる場を授業や学校行事で設定する。	「授業を通して表現力が高まった」の問いに対して「あてはまる」または「おおむねあてはまる」と答える生徒が A：90%以上 B：85%以上 C：75%以上 D：75%未満 昨年度88.6%（11月）	12月 生徒授業評価結果 「あてはまる」：48.2% 「おおむねあてはまる」：41.5% 合計： 89.7% 【達成度B】 (7月：85.8%)	・昨年同期より「あてはまる」と答えた生徒が2.4%増加した。 ・各教科の授業スタイルの工夫もあり、授業中の発言の場面が増加している。「あてはまる」と答える生徒がさらに増加するよう、授業や探究活動で心理的安全性を担保しながら、自らの考えを表現する機会を増やす等一層の工夫をしていく。
④ 生成AI等のデジタル技術を活用した授業やデータを活用した課題研究等の探究活動を通して、創造的思考力を育む。	①「生成AIやデジタル技術を活用した授業や探究活動を通して、自ら考え、課題を探究し、学びを深めることができた」の問いに対して「よくあてはまる」あるいは「おおむねあてはまる」と答える生徒が A：75%以上 B：60%以上 C：55%以上 D：50%未満 新しい質問項目 ②「授業や探究活動を通じて、新しいアイデアを考えたり、自分の考えを表現したりする創造的思考力が高まったと感じる」の問いに対して「よくあてはまる」あるいは「おおむねあてはまる」と答える生徒が A：75%以上 B：60%以上 C：55%以上 D：50%未満 新しい質問項目	①12月 生徒アンケート結果 「よくあてはまる」：40.9% 「おおむねあてはまる」：50.3% 合計： 91.2% 【達成度A】 (7月：87.4%) ②12月 生徒アンケート結果 「よくあてはまる」：38.6% 「おおむねあてはまる」：53.7% 合計： 92.3% 【達成度A】 (7月：90.7%)	・①は肯定的回答が91.2%（7月：87.4%）と増加し、生成AIやデジタル技術を活用した授業・探究活動を通して、生徒が自ら考え課題を見だし、学びを深める学習態度が着実に育成されたことが確認できる。②も肯定的回答が92.3%（7月：90.7%）と高水準を維持し、新たな発想の創出や自己表現を通じた創造的思考力の伸長が継続して認められる。 ・今後は、この成果を確かな学力として定着させるため、問いの設定・根拠に基づく検証・振り返りを重視した活動設計と評価を一層徹底し、生成AI等の活用を学びの深化に結び付ける。
学校関係者評価委員会の評価	・主体的な行動力に関して、学校生活の中で良かったことを褒め称える、それを皆の前で発表する機会は自然にあると思うが、失敗したことを褒める、失敗したことが素晴らしいと肯定される場、チャンス、機会があれば、「失敗しても大丈夫」という雰囲気を実感でき、生徒の自己肯定感にもつながっていく。		
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方針	・学校行事、具体的には文化祭の模擬店運営などが一番の失敗の場であり、そのような場の中には周囲のサポート、チャレンジしたことへの外部からの称賛があることも生徒に伝えていきたい。また、近年授業においてはAIを活用し、それを所謂壁打ちの相手としてICT機器を通して失敗を積み経験をしている。今後はAIに丸投げするのではなく、しっかりと質問事項（プロンプト）を考え、問いを投げかける、そのように効果的にAIを活用することで生徒の自信につなげていく。		

【重点目標2】 進学指導：生徒の進路意識の成熟を促し、高い目標を強い意志をもって実現する生徒を育成する。

具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果(カッコ内昨年同時期結果)	分析(成果と課題)及び次年度の扱い(改善策等)
<p>① 将来にむけて、一人一人のキャリアビジョンの発達を促すため、さまざまな進路行事を通し、文理選択や学部学科選択、将来について広く考える機会を設ける。3か年を通して、系統だったキャリア教育を、時宜を得た適切なかたちで行う。</p>	<p>全学年、「前より自らの将来のキャリアについて深く考えるようになった」と答える生徒が A：75%以上 B：60%以上 C：55%以上 D：50%未満 昨年度92.4% (11月)</p>	<p>12月 生徒アンケート結果 「よくあてはまる」：53.7% 「おおむねあてはまる」：36.9% 合計：90.6% 【達成度A】 (7月：89.0%)</p>	<p>・1年生は文理・コース選択にむけて、総合的な探究の時間での「キャリア研究」と連動し、「研究」まで意識して系統立ったキャリア教育を行うことができている。2年生はより具体的な自分自身の進路選択へと昇華できるように取り組んでいる。今後は、多様な入試形態もふまえ、生徒一人ひとりにとって最適な選択肢を見つけ出せるように、3年間見通したプランは大切しつつ、個別最適な進路を見出せるように支援していきたい。</p>
<p>② 保護者懇談や保護者対象の進路説明会、生徒への面談を通して、生徒の進路に関して保護者と十分情報交換を行い、信頼関係を築く。 特に3年生の保護者には5月及び8月に進路説明会を行い、新課程入試について、本校の実績を踏まえて説明する。1年生の保護者には、7月に進路説明会を行い、文理選択に対する十分な情報提供を行う。</p>	<p>「本校の進路指導や保護者への情報提供は適切であるか」の問いに対して「よくあてはまる」または「おおむねあてはまる」と答える保護者が A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満 昨年度92.0% (11月)</p>	<p>12月 保護者アンケート結果 「よくあてはまる」：26.7% 「おおむねあてはまる」：64.7% 合計：91.4% 【達成度A】 (7月：93.8%) ※「わからない」を除外した割合</p>	<p>・昨年、一昨年とアンケート結果は、ほぼ変わっていない。 ・3年生の保護者に対しては、5月に第1回、8月に第2回の説明会を実施した。1年生の保護者に対しては、文理融合コースの新設もあり、文理選択やコース選択に関する情報を早期に提供できるように説明会を7月開催に変更した。 ・保護者説明会も保護者アンケートをふまえ、保護者へのメール配信での案内も加えたことで、参加者が今年度は非常に増加した。 ・今後もメール配信も併用し、よりの確な進路情報の共有に努め、保護者のニーズに応えていきたい。</p>
<p>③ 担任の生徒面談や、学年集会・進路講演会・進路説明会等の各種進路行事を有効に活用し、生徒の現状を把握し、生徒の意欲を高めるとともに、具体的にやるべきことを明確にし、共有する。 難関大志望者に対し、2年次から、意識づけ・学習サポート・集団づくりを進路指導課・学年団で連携し、早期から取り組む。</p>	<p>① 3年生の9月段階で難関大・金大を志望する生徒が A：65%以上 B：60%以上 C：55%以上 D：55%未満 ② 3年生の9月段階で、生徒の学習時間(授業以外)の平均が A：週45時間以上(平日5、休日10時間換算) B：週34時間以上(平日4、休日7時間換算) C：週27時間以上(平日3、休日6時間換算) D：週29時間未満</p>	<p>① 3年生の9月 生徒志望校調査 難関大および金大を志望する生徒 : 242名 62.5% 【達成度B】 (昨年同時期：235名 61.7%) ② 3年生の9月段階で、生徒の学習時間(授業以外)の平均が : 週39.0時間【達成度B】 (昨年：週49.6時間)</p>	<p>・例年より難関大をめざす生徒の割合が高い。また金大をめざす生徒は例年並であったが、早い段階から大学で学ぶ目的意識を明確にもつことができるような取組を行って、合格実績につながっている。 ・2年次より難関大説明会や特別講座を行い、クラスの枠を超えて学年全体で、難関大をめざす生徒の集団作りを進めてきた。今後も、生徒の進路希望を実現できるように継続してサポートしていきたい。 ・昨年度より9月に学習時間調査を行っている。時間の平均に大きな差が出ているが、その原因については経年比較等を行い、検討していきたい。</p>
<p>④ 生徒個々の志望や学力にあわせた、各大学に応じた入試対策を補習や個別添削指導を行い、進路実績の向上を図る。 近年入試で求められる情報処理能力や表現力、思考力を高める授業へと各教員が改善する。</p>	<p>現役合格者数が 金沢大80以上、難関大30以上 A：両方を満たす B：どちらか一方を満たす 金沢大70以上、難関大20以上 C：両方またはどちらか一方を満たす D：両方を満たさない</p>	<p>今年度入試結果 現役合格者数 金沢大学 97人 (昨年82人) 難関大 29人 (昨年30人) 【達成度B】</p>	<p>・1年次より、難関大説明会や特別講座などを継続して実施しており、参加した生徒たちが中心となって、学年全体を学習集団として牽引する役割を担った。学年全体で難関大をめざす機運が高まり、合格につながった。 ・金沢大学の合格者は受験者数が例年よりも決して多くはなかったが、二次試験にむけてコース別の取り組みを行い、結果、金沢大学の合格につながった。</p>
<p>学校関係者評価委員会の評価</p>	<p>・3年生9月段階の学習時間の平均が昨年度に比べて10時間の差がある(減少している)のは何が原因か。 ・進学者が多い金沢大学での学びを生徒に説明する場や機会が必要ではないか。</p>		
<p>学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策</p>	<p>・昨年度と比べ調査した週が一週間ずれている。昨年度は定期試験前ということも影響としてあるかもしれない。ただ、具体的な進路目標が定まっていない生徒の割合が高く、その目標が漠然としていることが頑張り切れない要因と考えられる。進路指導課中心にすべての教員が現在の入試制度をよく理解し、生徒が具体的な進路志望をもつことができるよう努めていく。 ・1年生を対象に文理選択前の9月に金沢大学の全ての学部・学科の大学教員に講義をしていただいている。今後も卒業生との連携も含め継続していきたい。</p>		

【重点目標3】 生徒指導・部活動：人間形成に主眼をおいた生徒指導を行い、進学校にふさわしい部活動を追求する。

具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果(カッコ内昨年同時期結果)	分析(成果と課題)及び次年度の扱い(改善策等)
<p>① 勉強と部活動の両立を図るために効率的な活動を追求し、生徒の学習時間の確保や、部員が勉強に主体的に取り組む姿勢をもつような指導を工夫するよう呼びかける。また、部活動で得た自信を勉学につなげ真の文武両道を目指す。</p>	<p>「勉強と部活動の両立ができています」の問いに対して、「よくあてはまる」「おおむねあてはまる」と答える生徒が A：80%以上 B：70%以上 C：60%以上 D：60%未満 昨年度：75.0%（11月）</p>	<p>12月 生徒アンケート結果 よく・おおむねあてはまると答えた割合 1年：80.6%（76.2%） 2年：69.0%（73.1%） 3年：— %（— %） 全体：77.2%（75.0%） 【達成度B】</p>	<ul style="list-style-type: none"> 1年生は昨年に比べ値が約5%上昇している。このままの調子で、高校での生活に慣れていってもらいたい。 2年生は昨年度に比べ、約4%下降している。部活動を頑張りながら勉強も取り組もうという雰囲気は感じるので、このまま顧問側からも両立する大切さを説いていきたい。 全体は約2%上昇している。勉強と部活動の両立を忘れずにこれからの受験に向かってもらいたい。
<p>② 生徒が自主的に挨拶を行うよう、生徒会等の挨拶運動を継続するとともに、教職員自らが積極的に挨拶を行うことで範を示し、教職員、生徒の自覚をさらに高める。</p>	<p>「挨拶はしっかり行っている」の問いに対して、「よくあてはまる」「おおむねあてはまる」と答える生徒が A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満 昨年度：92.7%（11月）</p>	<p>12月 生徒アンケート結果 よく・おおむねあてはまると答えた割合 1年：93.0%（91.7%） 2年：91.4%（94.5%） 3年：96.0%（91.4%） 全体：93.4%（92.7%） 【達成度A】</p>	<ul style="list-style-type: none"> 昨年同時期とあまり変化はないが、全体ではやや数値が高くなっている。 これまで同様、生徒会のあいさつ運動、部活動での指導を継続し、生徒の自覚を高めていきたい。
<p>③ 本校の「いじめ防止基本方針」に基づき、いじめアンケート、個人面談・保護者懇談や学校行事等の取り組みを確実に実施することで、いじめの予防や、早期発見を行う。</p>	<p>「いじめ予防や早期発見、早期対策に取り組んでいる」の問いに対して、「よくあてはまる」「おおむねあてはまる」と答える教員が A：95%以上 B：90%以上 C：75%以上 D：75%未満 昨年度：98.4%（11月）</p>	<p>12月 教員アンケート結果 「よくあてはまる」：43.7% （53.8%） 「おおむねあてはまる」：54.9% （44.6%） 合計：98.6%（98.4%） 【達成度A】</p>	<ul style="list-style-type: none"> 今年度も、学年団の迅速な面談等で、いじめにつながりかねない人間関係トラブルを把握し、その後の指導・観察等に役立てようとしている。また、保健室や教育相談室からの情報も大切にしながら、今後も継続して取り組んでいきたい。
<p>④ 日頃からの生徒観察により、気づいたことを関係者が素早く共有することを全教職員が心がける。またチーム学校として連携し、的確な対応を組織的に行うシステムを構築するとともに外部機関と連携し、心身の調和を基盤とした生徒の人間形成を図る。</p>	<p>【生徒アンケート】「先生は生徒理解に務め、生徒個人の悩みにも対応している」の問いに対して「よくあてはまる」「おおむねあてはまる」と答える生徒が A：95%以上 B：90%以上 C：80%以上 D：70%未満 昨年度：94.2%（11月）</p>	<p>12月 生徒アンケート結果 「よくあてはまる」：52.7% （49.2%） 「おおむねあてはまる」：42.6% （45.0%） 合計：95.3%（94.2%） 【達成度A】</p>	<ul style="list-style-type: none"> 担任教員が日常的に、丁寧に一人一人の生徒と面談し、生徒に寄り添っている姿勢が伝わっている。 配慮の必要な生徒について、教職員間で関係者との連絡を定期的に、又必要に応じてすみやかに実施しており、共通理解を図るとともに的確な対応を行っている。 悩みや問題を抱える生徒について、関係職員と情報を共有し、組織的に支援していく体制を継続していきたい。

学校関係者評価委員会の評価

- 高校における部活動の地域移行は今後進んでいくのか。中学校との関わりや部顧問の先生方の仕事の比重も考えていく必要がある。
- 学習と部活動を両立させるには、やはり活動時間の縛りが必要なのではないか。

学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策

- 中学校の部活動の地域移行が進む中で、その生徒たちが高校に入学してきた段階で高校の部活動の在り方も変わってくる。大会参加のシステムも含め、対応を検討していく。
- 活動時間平日2時間、土日のうち1日は休みという体制は継続。人間形成を主眼においた部活動指導を今後も追求していきたい。

【重点目標4】 学校組織：業務の効率化を進め、高い専門性と広い見識に基づいた協働的な教育活動を追求する。

具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果(カッコ内昨年同時期結果)	分析(成果と課題)及び次年度の扱い(改善策等)
<p>毎月の定時退校日を指定日ではなく、定時退校ウィークという形で設定し、フレキシブルな取得体制とすることで、より一層タイムマネジメントの意識を高めるとともに、ワークライフバランスを推進し、教育活動の質を高める。</p> <p>SSHやSTEAM教育などのプロジェクトを推進することにより、求められる教育のアップデートをはかり、自己研鑽や協働の機運を醸成する。</p>	<p>①「効率化やタイムマネジメントを意識した業務の遂行に努めている。」の問いに対して「よくあてはまる」「おおむねあてはまる」と答える教員が、 A：85%以上 B：75%以上 C：60%以上 D：60%未満 昨年度：87.7% (11月)</p> <p>②「社会の変化を意識して、新しい教育に意欲的に挑戦している」の問いに対して「よくあてはまる」「おおむねあてはまる」と答える教員が、 A：85%以上 B：75%以上 C：60%以上 D：60%未満 昨年度：90.8% (11月)</p>	<p>①12月 教員アンケート結果 「よくあてはまる」：35.2% (32.3%) 「おおむねあてはまる」：56.3% (55.4%) 合計：91.5% (87.7%) 【達成度A】</p> <p>②12月 教員アンケート結果 「よくあてはまる」：25.4% (40.0%) 「おおむねあてはまる」：67.6% (50.8%) 合計：93.0% (90.8%) 【達成度A】</p>	<p>①「よくあてはまる」「おおむねあてはまる」と答える教員が91.5%と、昨年同時期より増加した。教員個々のタイムマネジメント、ライフワークバランスの意識も醸成しつつある。引き続き業務の効率化に努めていきたい。</p> <p>②「よくあてはまる」「おおむねあてはまる」と答える教員が93.0%と、昨年度より増加した。SSHおよびSTEAM教育推進校の指定を受け、新しいことにチャレンジしてみようという意識をもつ教員が増えてきているように思われる。また、そのような雰囲気为学校全体で醸成していきたい。</p>
<p>学校関係者評価委員会の評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・実際に教員の疲弊感はみられるか。 ・昨年度からタイムマネジメントが抜群に良くなっている。タイムマネジメントの効果が見られた具体的な取組はあるか。 		
<p>学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・問題を抱える生徒を持つ担任の先生方は悩まれているが、管理職、相談室、保健室やカウンセラー等、複数の目で見えていく形でこれからも引き続き情報共有に努めていく。 ・機械やソフトに頼るよりも普段から目の前で声をかけて、その様子をよく観察することが大事だと考える。先生方とのコミュニケーションを積極的にとるように努める。 		

【重点目標5】 危機管理：防災への備えを高めるとともに、大規模災害を想定した危機管理体制の整備を図る。

具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果(カッコ内昨年同時期結果)	分析(成果と課題)及び次年度の扱い(改善策等)
<p>日頃から震災・火災やその他の災害(風水害、学校への犯罪、テロの予告等)に備えて防災講話等の防災教育を行い、災害に対する意識を持たせる。また、避難訓練・防災訓練を行い、災害時に自分自身の身を守る行動がとれるようにするとともに、「共助」の意識の育成を図る。</p>	<p>①「避難訓練、防災訓練に真剣に取り組み、防災意識が高まった。」の問いに対して「よくあてはまる」「おおむねあてはまる」と答える生徒が、 A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満 新しい質問項目</p> <p>②「生徒に対し避難訓練、防災訓練に真剣に取り組ませることで防災意識が高めさせ、災害発生の折には的確に生徒を誘導、避難させることができる。」の問いに対して「よくあてはまる」「おおむねあてはまる」と答える教員が A：90%以上 B：80%以上、 C：70%以上 D：70%未満 新しい質問項目</p>	<p>①12月 生徒アンケート結果 「よくあてはまる」：49.8% 「おおむねあてはまる」：45.6% 合計：95.4% 【達成度A】</p> <p>②12月 教員アンケート結果 「よくあてはまる」：31.0% 「おおむねあてはまる」：63.4% 合計：94.4% 【達成度A】</p>	<p>①4月実施の防災避難訓練、7月実施の地震に対する避難訓練ともに、生徒たちは真剣、真面目に取り組んでいた。この結果に油断することなく、今後も、「防災」「避難」に対してしっかりと意識させ続けることが必要である。</p> <p>②教員は「よくあてはまる」「おおむねあてはまる」併せて94.4%と高い割合で、明確な意識を持って訓練に参加している。万が一の場合に備える、無事避難させることを想定して訓練に取り組むことが今後も必要である。</p>
<p>学校関係者評価委員会の評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・防災教育においては、地域との連携が重要である。 ・教員が防災教育を受ける機会が必要である。 		
<p>学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・防災避難訓練の際や防災教育の取組の中で、地域の公民館との連携を検討していきたい。 ・教員は県教委主催の防災教育に関するオンデマンド研修を受講している。修学旅行、全国大会の生徒引率等でもハザードマップの確認を徹底させる。 		